

〈様式2〉

令和5年度 体力向上における各校の成果(小学校)

若狭町

教育委員会

| No | 学校名 | | 成 果 |
|----|-----|-----|--|
| 1 | 三方 | 小学校 | 体力テストの結果をみると、50m走を除くほとんどの項目で数値が向上していることが分かる。基礎体力を高める取り組みが効果的であったと考えられる。 各委員会の取り組み、体育大会や陸上記録会に向けた練習、外遊びの奨励等によって、運動量を多く確保することができた。 |
| 2 | 気山 | 小学校 | なわとびカードの見直しを行ったことにより、「次の級に行きたい！」と児童はこれまで以上に意欲的に取り組むことができ、休み時間にもなわとびをする姿が多く見られた。 高学年の陸上記録会に向けて、6年生が中心となり練習メニューを担当の先生と相談するなどして主体的に取り組むことができた。昨年よりも入賞者が増え、結果にもつながった。 学校評価アンケートにおいて、「体育の授業や業間の体育的活動に、一生懸命取り組むことができたか？」という問いに対して98%の児童が「できた」「大体できた」と答えた。 |
| 3 | 梅の里 | 小学校 | 「梅の里長距離フェスティバル」に向けた練習では、個人の目標設定を毎時間行うことで、児童ほぼ全員が本番では練習時から記録を伸ばした。また、グラウンドを周回する形を取っているため、精一杯応援する姿が見られ、「来年もがんばりたい」という前向きな感想が多く見られた。 |
| 4 | みそみ | 小学校 | 学習カードや動画を詳しく見て運動への見通しが持てたことで、体育授業以外にも休み時間に取り組む児童の姿が多かった。 (朝マラソンやなわとびで児童が目標に向かって意欲的に取り組めるようにできたか)に対する教職員のふり返りでは「できた・どちらかといえばできた:100%」であった。また、児童が(目標を持って取り組めたか)どうかにおいても「できた・どちらかといえばできた:90%」であった。 |
| 5 | 鳥羽 | 小学校 | 学校評価アンケートによる自己評価では、運動や体を動かすことに自分なりに目標をもって取り組めたと肯定的に回答した児童が約95%いた。また、鳥羽スマートルール(ネットルール)の意識向上を目指した取組みにより、児童の約96%が鳥羽スマートルールを守ろうと努力していると肯定的に回答した。保護者アンケートで、児童が鳥羽スマートルールを意識して生活していたと肯定的に回答した保護者は8割と毎年継続的に改善されている。また、学年ごとの課題に即した補助運動の成果として、体力テストの経年比較より50m走・立ち幅跳びで課題が見られた5年生男女に大きく改善が見られた。また5年男子の持久力も大きく飛躍的に向上した。 |
| 6 | 瓜生 | 小学校 | 「スポーツチャレンジ大会」に向けて休み時間に体育館へ行って練習する児童の姿が多く見られた。これまで特に冬場に運動する児童が少ないという本校の課題を解決する一助となった。高学年児童に調査したところ、「大会に向けて運動する機会が増えた」という児童の割合が9割を超えた。 |
| 7 | 熊川 | 小学校 | 委員会主催の催し物は、児童が主体的に活動する場として重要な時間となっている。また、小規模校の利点を生かし、能力別に指導ができる体制を組織した。特に水泳学習では、児童一人一人に合った指導ができたことで、意欲や技術が向上した。 |
| 8 | 三宅 | 小学校 | 縦割り遊びを年間通して行うことや、他の学年を誘って異学年で遊ぶ機会を多く設けることによって、遊びのバリエーションが増えた。 体育カードを活用することにより、それぞれの運動種目や体育的行事に対して、目標を立てて運動に臨むことができた。 (学校評価項目 体育的行事では、自分なりの目標を決めてがんばることができたましたか:97%) |
| 9 | 野木 | 小学校 | マラソンカードやなわとびカードを可視化し、カードを教員が評価することで、意欲をもって取り組むことができたと感じる。「目標を持ち体力づくりに挑戦できた」の問いに、95%以上の児童が「できた」と回答した。 |